



京都大学防災研究所
Disaster Prevention Research Institute
Kyoto University

地域防災実践型共同研究(一般)

2023RG-01

「防災ミュージアム」をベースにした持続 型地域防災教育の構想

Envisioning Sustainable Regional Disaster Education Based on “Community Disaster Museum”

令和 7 年 3 月

March, 2025

研究代表者 山脇 光章

Coordinator Mitsuaki Yamawaki

地域防災実践型共同研究（一般）（ 課題番号： 2023RG-01 ）

課題名： 「防災ミュージアム」をベースにした持続型地域防災教育の構想
研究代表者： 山脇 光章
所属機関名： 四万十町役場教育委員会
所内担当者名： 矢守 克也
研究（滞在）期間： 令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
研究（滞在）場所： 高知県四万十町（主に興津地区）
共同研究参加者数： 19 名（所外 3 名，所内 16 名）

研究及び教育への波及効果について

閉校となった中学校の校舎を「防災ミュージアム」として再構築し、地域防災活動の中核施設として位置づけるという新たな発想の社会実装とその効果と課題の検証は、防災教育学および地域防災学に関する研究と教育の両面、特に、学生の実践場面での教育の両面に対して大きな波及効果があった。

研究報告

(1) 目的・趣旨

本研究は、閉校となった中学校の校舎を利用して開設した「防災ミュージアム」を拠点に、地域内に小中学校が存在しなくなったコミュニティにおける防災教育や地域防災活動を継続・発展させ、かつ、そうした活動の成果を周辺の小中学校区（対象とする地区の児童・生徒が新たに通うことになる別地区の小中学校を含む）へと拡大させて、自治体全体の防災教育や地域防災の活性化を図るためのアクションリサーチである。

(2) 研究経過の概要

高知県四万十町興津地区では、長年にわたって地域防災活動の拠点となってきた小中学校（興津小学校、興津中学校）の閉校を踏まえ、地域防災活動の中心を、これまでの児童・生徒から、地域の成人、特に高齢者へとシフトさせる必要が生じていた。本研究では、そのためのプログラムを新たに導入し、その成果の検証作業を実施した。具体的には、第 1 に、高齢者のための健康づくりのプログラムと防災活動とを融合させるためのプログラムとして「ウォーキングマップ」を作成した。第 2 に、地域防災活動の新たな中核として期待される成人（特に女性）にターゲットを定め、地域の基幹産業である農業団体の女性部と連携して、新たな防災セミナーを開始した。第 3 に、地域防災と健康福祉事業を組み合わせた新しいタイプの活動「防災リハビリ教室」を創案し、試行的に実施した。以上の研究過程で、のべ 60 人以上の学部学生、大学院生が同地区でフィールドワークを実施したほか、うち 1 人は同地区に合計 6 ヶ月にわたって長期滞在して、役場職員や地域住民と交流しつつ参与観察を行う経験をするなど、本共同研究は学生教育にも大きな役割を果たした。

(3) 研究成果の概要

第 1 に、高齢者のための健康づくりのプログラムと防災活動とを融合させるためのプログラムである「ウォーキングマップ」については、マップそのものを完成させたほか、マップを活用した活動（避難施設を含む集落内の複数の地点をめぐる歩くウォーキング活動）のプログラムを地元の介護支援サービス業者と新たに開発するアクシ

ヨリサーチ「防災リハビリ教室」を、防災ミュージアムを拠点に開始し、同事業はすでに 30 回以上にわたって実施した。また、この試みを通じて、「防災×健康」という新たな枠組みを提起した。第 2 に、地域の基幹産業である農業団体の女性部と連携した新たな防災セミナーについては、セミナーをすでに 4 回開催し、閉校後の学校を地域住民中心の防災活動の拠点として活用するためのモデルケースとなった。化をはかり、かつ、拠点となる防災ミュージアムのマネジメントやガイド役をメンバーがつとめることで、ミュージアム活動の継続性をはかるための準備を行った。最後に、以上の活動が、過疎高齢化と学校の統廃合が進む地域での地域防災活動のモデルとして有する意義と課題について防災心理学の観点から考察し、その成果を数点の研究論文、学会報告として発表した（具体的な、下記（4）項を参照）。

（4） 研究成果の公表

- ・ Yamori,K. (in press). Integrating research on mitigation/preparedness and recovery/reconstruction from a narrative-theory. Journal of Disaster Science and Management.
- ・岡田夏美・中野元太・大西祐輔・藤本温子・矢守克也（2025）中・長期的な防災教育効果の持続のための教育カリキュラム構築に関する考察 災害情報学会第 30 回学会大会 2025/3/15-16
- ・矢守克也（2025）超高齢・人口減少社会における災害対策の新たなパラダイムー令和 6 年能登半島地震を踏まえてー 公衆衛生, 89,1, 4-11.
- ・矢守克也・岡田夏美（2025）「防災×健康」「防災×廃棄物」による地区防災計画の推進 地区防災計画学会第 11 回大会予稿集（地区防災計画学会誌 32）, 95-96.
- ・大西祐輔・矢守克也（2024）防災活動と地域の日常生活の関係性についての分析 第 43 回日本自然災害学会学術講演会 2024/9/19-20
- ・矢守克也（2024）地区防災計画のクロスオーバーー「環境」・「観光」・「健康」ー 内閣府・地区防'Z 及び地区防災計画学会連携シンポジウム「地区防災計画制度施行・地区防災計画学会創設 10 周年記念」基礎資料, 48-50.
- ・中野元太・矢守克也・岡田夏美・杉山高志（2024）インターローカルな防災教育の展開 質的心理学研究 質的心理学研究 No.23 S39-S45
- ・岡田夏美・矢守克也（2023）学校防災教育における対話的評価手法の開発に関する研究ー「主体的・対話的で深い学び」をめざしてー 防災教育学研究, 4(1), 53-62.
- ・矢守克也・中野元太・杉山高志・岡田夏美（2023）ハードルを下げた／上げた避難訓練 地区防災計画学会誌, 27, 34-43.